

### 医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター

#### 検体に関する匿名化された臨床情報の提供も可能に



医療-産業トランスレーショナル  
リサーチセンター  
センター長 渡辺 慎哉

#### センターの概要

医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター（以下「TRセンター」）は、東日本大震災復興プロジェクトの1つである「福島医薬品関連産業支援拠点化事業（福島事業）」を推進するために平成24年11月20日に発足しました。本事業は、経済産業省の平成23年度第3次補正予算を原資としており、その目的は、研究開発した成果物により医薬品関連産業の開発支援を行うことと、福島の地に新たなバイオ産業および雇用を創出することです。そのため、本事業では、福島県立医科大学附属病院や連携医療機関の協力を得て、創業に欠かせない貴重な生体試料や臨床情報を収集し、製薬企業や研究機関が活用しやすい形に加工しています。また、極微量サンプルでも解析できる技術開発により、生体試料の各種解析情報を提供することで医薬品や診断薬の開発加速に活用されています。

#### センターの組織

TRセンターは、ふくしま国際医療科学センターに所属する5つのセンター



のうちの1つです。平成24年発足当時は10の分野から構成されていました。平成28年に新たな拠点（災害医学・医療産業棟）が整備されて研究開発が進むにつれ、注力すべき成果物への選択と集中を行った結果、平成29年度に6部門および3事業支援室からなる組織に生まれ変わりました。令和元年10月1日現在、センターの構成員は69名です。

#### 活動実績

福島事業は、希少かつ有限の臨床検体を収集・保存し、以下のように処理して最大限に活用しています。

- 1) 情報に変換する：網羅的遺伝子発現解析・ゲノム解析・タンパク質解析等
- 2) 加工して増やす：がん組織由来培養細胞（塊）作製・担がん動物作製等
- 3) 極微量サンプルの解析技術を開発する：DNAマイクロアレイ・タンパク質マイクロアレイ等

このような多種多様な成果物を「福島コレクション」と名付け商標登録しました。検体に関する臨床情報（匿名化されたもの）も提供できるという点で、他のバイオバンク等にはない特長となっています。多岐にわたる「福島コレクション®」を当センターのホームページでご覧ください（<https://www.fmu.ac.jp/home/trc/>）。現在、製薬企業や診断薬企業との間で当コレクションを活用した共同・受託研究や成果物（情報）の提供が進んでいます。施設の特徴としては、医薬品製造に



使用するセルバンクの保管までできるGMP（※）に準拠した細胞保管施設を備えていることです。本年6月に医薬品製造業許可を取得した高グレードの施設です。このような大学施設は全国的にも例がないといわれています。※GMP (Good Manufacturing Practice) 医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準。

当事業の目的の1つは福島の地にバイオ産業を創出し、また当センターも自立化することですが、開発技術に関連して「福島プロテインファクトリー（株）」が平成30年2月に、また「富士フィルム和光バイオソリューションズ（株）」が平成31年2月に設立され、それぞれに医大発ベンチャーの称号が授与されています。

当センターは、今後もベンチャー化等を進め、医薬品関連産業の開発支援を通じて福島の復興に貢献してまいります。

図3 高グレード細胞保管施設



### 本学学生が、学会併催の学生ワークショップで発表 表彰を受けました

11月8～9日、郡山市のふくしま医療機器開発支援センターにおいて第46回日本臓器保存生物医学学会学術集会が開催されました。この学会では8日に「イブニングリフレッシュセミナー」として、学生ワークショップ「みんなで話そう移植医療！」が開催され、本学から医学部、看護学部の1年生、7人がチームで発表を行い、高い評価を得ました。

参加メンバーは、医学部1年の大田裕介さん、齋藤周也さん、齋藤直人さん、伊藤瑞歩さん、稲田賢嗣さん、さらに看護学部1年の山内麻里子さん、西野結愛さん。7人は発表に先立ち、医大生や県民それぞれ100名以上に移植医療に関するアンケート調査を実施。その後、5回にわたるミーティング、ディスカッションを通してその結果を解析し、このワークショップでの発表に漕ぎつけました。「移植医療に関するアンケート調査からわかったこと」という演目での発表は、会場に駆け付けた学会理事長の剣持敬先生（藤田医大）から絶大

な賛辞を頂き、「若者への移植医療啓発についての新たな知見を発表し、本学会に多大な貢献をした」として大会長の小林英司先生（慶應大学）より表彰状が、さらに福島県保健福祉部高野武彦次長より記念品も贈呈されました。

学生の指導に当たった肝胆膵・移植外科学講座の丸橋繁教授は「このワークショップに医大生が参加し、発表を行ったことは大変貴重なことで、明るい話題であるばかりか、福島にとってもかけがえのない、大切なことです。今後も同様の活動を継続的に出来ればと思っています。」とコメント。学生が移植医療について考える活動の重要性を強調されました。

写真上  
発表に向けた  
ミーティングの様子

写真下  
小林英司先生（慶應大学）より表彰状授与



### 恒例 パンダハウスチャリティーバザーを開催

今年も12月10日（火）、11日（水）の両日、本学附属病院玄関ホール、みらい棟通路において、年末恒例のパンダハウスチャリティーバザーを開催します。支援者の皆さまの手作りによるアクセサリや雑貨、小物など、毎回人気の品々がたくさん出品されます。教職員の皆様もぜひ、お立ち寄りください。

■開催日時  
12月10日（火）・11日（水）  
9：00～13：00

■開催場所  
福島県立医大附属病院  
玄関ホール、みらい棟通路

本バザーの売上金の一部を、認定NPO法人パンダハウスを育てる会の管理運営費に充てられます。



子どもが入院しなければならなくなった時、付き添う家族は精神的にも経済的にも大きな負担を伴います。遠く自宅を離れ、本学附属病院で治療を受けながら病と闘っている子どもと家族が安心して滞在できる“もう一つの我が家”それがパンダハウスです。認定特定非営利活動法人パンダハウスを育てる会が、運営をしています。

